



産後間もない母子をサポートしようと、倉敷成人病センター（倉敷市白楽町）は今年から、産後ケア事業を始めた。産後3カ月までの母親と赤ちゃんを日帰り、宿泊とも受け入れ、助産師、看護師が育児の相談や指導などを行う。想定されている主なサービスは授乳指導、乳房の手入れ、赤ちゃんの沐浴、おむつ交換など。母親はしっかり休息してもよいし、育児の悩みを相談してもよい。個室の病室を利用するので、プライバシーは守られる。利用料はセンターでの出産者と他院での出産者とで異なる。センターでの出産者は1泊が2万円、日帰りは8千円。他院での出産者

倉敷成人病センター 産後ケア事業スタート

母親の休息、不安解消に一役

助産師、看護師が世話や相談



倉敷成人病センターは産後ケア事業を通して母子をサポートする＝同センター提供

は1泊が3万5千円。日帰りは1万6千円。いずれも宿泊は3食、日帰りは1食付き。ただし、サービスを利用する際は居住する自治体の助成を受けることがで

千円、日帰り千円、他院出産者は1万8千円、9千円で利用できる。同センターでは年間、約1400件の分娩がある。倉敷市のほか、患者の多い岡山、総社、玉野、高梁、笠岡、井原市、早島町の在住者を受け入れの対象としている。

利用は原則平日だが、土日曜、祝日も柔軟に応じる。父親も一緒に宿泊できる。母子の着替え、おむつ、ミルク、お尻ふきなどは各自で持参する。

出産は身体の負担が大きい上、産後もダメージが残り、昼夜を問わない育児で睡眠不足になる。国内の研究によると、産後の女性の約10～15%が気分の落ち込みや食欲不振、自己評価の低下といった症状が続く「産後うつ」になるとされる。

看護部の藤原優子師長は「気軽に利用できる産後ケアを提供し、育児に悩む方もそうでない方も含めて全ての親子を支えていきたい」と言う。

申し込みは周産期センター（086-421-1023）。（二羽俊次）